沼高図書だより

令和４年10月17日
広島市立沼田高等学校
図書委員会

先生が選んだ体験記優秀作

国語科の夏課題の一つ、読書体験記。国語の先生の互選により、特に優れているものはコンクールに応募することになっている。今回は、特に多くの票を集めた体験記を一編紹介する。

「誰かのために」
2年4組　上村千鳥
○読んだ本
『銀河鉄道の夜』宮沢賢治

自分の死を考えると眠れなくなる。不安や恐怖というよりも、この日常が崩れることが不思議で仕方ないからだ。かといって今の日々をそれほど大切にしているわけではないのだが、きっと心のどこかに、自分自身を大切に思う気持ちがあるのだろう。

この本と初めて出会ったのは、小学生の頃だ。物語の結末で、登場人物の一人カムパネルラは、川で溺れそうになった友人を助けようとして亡くなっていたことが明らかになる。当時の私は、このカムパネルラの行動に疑問を感じた。なぜ死ぬかもしれないのに川へ飛び込んだのか。自分だったら、助けたくても二の足を踏んでしまうだろうことが、想像できてしまったのである。

高校生になり、この本を読み返してみたが、やはりカムパネルラはどこか私とは違う気がした。しかし、同時に気付いたことがある。私とカムパネルラの大きな違い。それは、前を向いているかいないかだ。

私には、いつも挑戦する前から出来ないと思い込んでしまう癖があった。この数学の問題は私には解けない。この料理は私には作れない。そんな日常の小さなことでも、私は自分を低く見積もる。それは、欠点のない完璧な結果を求めているからだと思う。カムパネルラの、友達を助けた行動に疑問を感じ「私にはできない」と思ったのも、助けられないかもしれないと思ったから、完璧な結果が想像できなかったからだろう。そんな、臆病な私。

今回この本を読み終わった後、カムパネルラに心惹かれる自分がいた。私も、結果のことは考えず、ただ真っ直ぐ誰かのために行動できる人になりたい。そう思った瞬間、肩の力が抜けた気がした。結果だけを重視するのではなく、「今」の気持ちを大切にすることで「あの時こうすればよかった」という後悔は少なくなるはずだ。

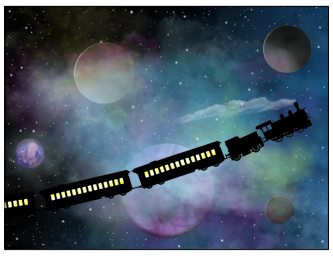
私がそう実感したのは、部活動の時である。カラーガードをしようか悩んでいた私は、色々考えて頭の中が一杯になっていた。「私に出来るのだろうか」「途中でやめたいと思ったらどうしようか」以前の私だったら、挑戦することなくやめていたかもしれない。しかし、結果のことを考えずに挑戦してみた結果、今とても楽しい毎日を過ごせている。「今」の気持ちを大事にして行動した、その時の自分に感謝している。もし完璧な結果しか許せない考えを持ち続けていたら、私はやりたいことをやっていなかったと思う。自分自身を大切にして、本当によかった。

この体験を通して、私はカムパネルラのことをもう少し深く理解することができたように思う。友達を助けるために川へ飛び込んだ時、彼は、後先のことなど考えていなかったのではないか。ただ、助けるために。死を恐れるのではなく、ただ真っ直ぐに誰かのために行動したのだろう。

カムパネルラのセリフに「誰だってほんとうにいいことをしたらいちばん幸せなんだねえ」というものがある。私はその言葉に出会って以来、自分自身を大切にすることはもちろん、「誰かのために」と思う気持ちをより強く持つようになった。命をかけるような大きな場面でなくてもいい。洗い物を手伝ったり、怪我をした子どもに絆創膏をあげたり。そんな小さな「誰かのために」の行動が、相手も、そして私も幸せにしてくれるように思う。

今も、自分の死を考えると恐怖を感じる。しかし昔の私とは少し考えが変わった。今の私は、死と誰かのために行動することは、別のことだと考えるようになった。誰かのために行動した結果が、残念ながら「死」へ繋がってしまうことはあるだろう。しかし生きている以上、どの選択が最良で、どの選択が間違っているのかなど分からない。だからこそ、結果ではなく「今」を考える。「今」の気持ちを大切にする。そうすれば、少なくとも自分の生き方に満足することができるだろう。

私もいつか「助けたい」と強く思える人と出会いたい。そしてカムパネルラのように強い意志と勇気、行動力を持って生きていきたい。そう思うと、不思議と「死」については焦点を当てなくなったのだ。遠い未来のことを考えられないくらい「今」を大切にし、楽しむこと。それがこれからの人生を送る上での、私のテーマだ。



本棚の宝物

このコーナーでは、先生方にとって思い入れのある一冊を紹介していただきます。今回は家庭科の谷口先生にお話を伺いました。

―先生のお気に入りの一冊は何ですか？

有川浩さんの『植物図鑑』という本です。漫画化や実写映画化もされました。

―その本のどのようなところに魅力を感じますか？

基本は恋愛小説なのですが、沢山のレシピが書いてあり、楽しみながら読めるところです。小説を読みながら料理が出来るというのはとても新鮮で、面白く思いました。

―実写化された映画はどうでしたか？

岩ちゃん（岩田剛典）がかっこよかったです！ヒロインの高畑充希さんもすごく可愛いので、皆さんもぜひ観てください。

新刊紹介

水泳部のＯＢで、本校の６期卒業生の先輩・林けんじろうさんが、尾道を舞台にした本を執筆した。タイトルは『星屑すぴりっと』。講談社児童文学新人賞の佳作に選ばれ、同社から発行された。

難病を患ういとこのために奮闘するというストーリーで、少年の心の成長が描かれる。尾道を舞台としており、作中には尾道の色々な名所が登場する。

少年と友人がケンカやトラブルを乗り越えながら、自身や相手の心と向き合っていく。読み終えると、読んだ自分もひとまわり人として成長したように思える作品である。

大林宣彦監督の映画作品が好きで、学生時代から尾道をよく訪れていた林さん。実際に尾道から京都まで普通列車に乗って移動し、作中のエピソードにかかる時間も考慮しながら執筆したそうだ。

作品は小学校高学年以上向けに作られているが、高校生の私たちが読んでも満足感に浸ることができる作品だ。

だから私はこの本が好き

図書委員のブックレビュー

「応答せよ、応答せよ。こちらあみ子」あみ子の母のお腹の中には赤ちゃんがいる。その弟が生まれたらこのトランシーバーを使ってスパイごっこをする予定だ。あみ子は少しだけ風変わりな女の子。優しい父、面白い兄、書道の先生の母、憧れの同級生で大好きなのり君。純粋なあみ子の行動で周りの人が少しずつ変わっていく過程を少女の無垢な視線で鮮やかに描かれた、今村夏子作『こちらあみ子』。

私たちは何を基準に普通かおかしいかを決めているのか。それが問われる作品です。広島を舞台として、今年の夏に映画化されています。

（レビュアー　大木こころ）

お知らせ

【図書室開館時間】
○昼休憩：12：45～13：20
○放課後：清掃終了後～16：50（原則）
【貸出・返却可能時間】
○昼休憩：13：00～13：20
○放課後：清掃終了後30分程度
・開館時間と貸出時間は違います！！！
・図書委員不在時の貸出、返却はできません。
・1回5冊まで、2週間借りられます。

編集後記

新刊も続々入荷中です。ぜひ図書室を利用してください。